

# 高齢者の早期退院に向けた「栄養経営」の実践

現在、入院早期から対象患者に栄養介入し、静脈栄養から経腸栄養、そして経口摂取へと移行することが栄養管理のプロである管理栄養士に強く求められるようになりました。したがって管理栄養士は、対象患者の病態を総合的に評価し、退院へとつなぐためのチームアプローチをしっかりとマネジメントしていかなければなりません。超高齢社会の中で入院患者も高齢化し、複雑な病態の方が増加しています。そうした方々へどのように栄養管理のマネジメントを行なっていけばよいのか、日々悩んでいる方も多いと思います。本セミナーはそうした管理栄養士の方々に対し、急性期と回復期における栄養管理の取り組みと高齢者の病態について「栄養経営」の視点から解説していく内容となっています。ぜひとも本セミナーで学んだことを実践し、栄養領域のマネジメントリーダーをめざしていただきたいと思います。

ヘルスケア・レストラン編集長 佐々木 修

**日程・会場** 2015年 **8月9日(日) 札幌会場(北海道自治労会館)**

**住所** 〒060-0806 北海道札幌市北区北6条西7丁目5-3

**時間** 10:00～15:40(予定) **参加費** 3,000円(税込) **定員** 200人 定員になり次第、締め切らせていただきます

**主催** 株式会社 日本医療企画 **後援** 一般社団法人 日本栄養経営実践協会

**問い合わせ先** (株)日本医療企画 北海道支社まで TEL:011-223-5125 FAX:011-223-5126

セミナーの内容	<b>教育講演</b> <b>高齢者の病態の栄養管理</b> ——認知症とサルコペニアへの対応—— <small>沖縄メディカル病院あがりほまクリニック院長 一般社団法人日本栄養経営実践協会理事</small> <b>吉田 貞夫氏</b>	 <p>高齢者によくみられる病態として、認知症とサルコペニアが挙げられます。高齢者に対する栄養管理とリハビリを適切に実践していくことが、これらの病態による重症化リスクを低減することになります。本講演ではこれらの病態の問題点を把握し、具体的に「栄養経営」を実践していく方法について解説します。</p>
	<b>講演①</b> <b>急性期における栄養管理とマネジメントの実践</b> 不要な絶食者ゼロをめざす病棟業務マネジメント <small>関西電力病院疾患栄養治療センター 一般社団法人日本栄養経営実践協会理事</small> <b>真壁 昇氏</b>	 <p>現在、多くの病院において漫然と静脈栄養管理を行っているケースが見られます。それは患者へネネットを損なうだけでなく、病院経営においても損失となります。NSTのマネジメントリーダーとしての責務を果たすためには、不要な絶食患者ゼロをめざすことが最短の方法です。そのためにはどのように病棟業務をマネジメントしていけばいいのか、概説します。</p>
	<b>講演②</b> <b>回復期リハにおける栄養管理とマネジメントの実践</b> ——リハ栄養における目標設定と栄養管理の進め方—— <small>刀圭会協立病院 栄養課</small> <b>吉村 由梨氏</b>	 <p>患者さんが退院後に何をしたいと希望されているのか？ そのゴールを実現するためには、どのようにリハビリを進めるべきなのか？ そして、そのリハビリを支えていくためには、どのように栄養管理を実践すべきなのか？ リハ栄養で求められる管理栄養士の取り組みについて、実際の事例をもとにご紹介します。</p>

※講演内容等は、変更する場合がございます。

**インターネットで申込み** <https://www.jmp.co.jp/seminar/enge/sapporo> 詳しくは 日本医療企画 ヘルスケア・レストラン **検索**

<b>FAX申込書</b> ※受講票送付時の誤発送防止のため、お名前・住所・電話番号などは、楷書ではっきりとお書きください。		お申し込み日	年	月	日
フリガナ		E-mail			
お名前					
ご住所	〒	(ご自宅・お勤め先)※○をおつけください			
TEL		FAX		日中連絡がとれるTEL番号	
フリガナ					
お勤め先					
部署名		役職名		職種	
参加人数	人	お申し込み代表者以外の参加申し込み者氏名		職種	

◆お客様より取得した個人情報については、目的以外での利用、及び無断での第三者への開示は一切いたしません。  
 ◆本申込書到着後、参加費振込先をご案内いたします。ご入金確認後、受講票をお送りいたします。

FAX

**FAX:011-223-5126**